

平成20年度はくび会ソフトボール



平成20年度はくび会ソフトボール大会「おとながわんぱくになっても良い日」が、5月12日(月)の畜産資源VS栄養の試合を皮切りに

始まりました。各研究室の意地とプライドと笑いを欠けた一年で最も熱い戦いが今年も始まりました。

今年も畜資がはくび会ソフトボールの運営担当ということで、事前の農学部グラウンド確保から日程調整・・・と途中でフェイドアウトした担当に変わり木村君お疲れ様でした。



また、今年も臨場感たっぷりの試合速報も好評との評判が！

で、気になる試合結果ですが・・・畜資11-9生殖、栄養9-9畜資、栄養11-9連合、栄養4-13生殖、畜資16-4連合、連合10-9生殖で、《優勝》畜資(2-0-1)、《2位》栄養(1-1-1)、《3位》生殖(1-2)、連合(1-2)となり、2年連続で畜資が優勝を飾りました！！



今年は例年以上に接戦が多く、

白熱した試合ならではの珍プレー、好プレー、疑惑プレーが数多く生まれ、審判も胃が痛かったらしいです。また、今年は連合チームが実力派揃いの生殖に一勝を挙げました。人数がそろってきたことありますが、I先生の「勝ちたいんや！！」という気持ちでチームを一丸とさせた結果だと思いました。

畜資といえば・・・相変わらず、相手の女性



に弱い(弱すぎる)大阪の男性2人。それを白い目でみる畜資の女性陣・・・。助っ人クルーンの快刀。これまでの野球における1・2番の歴史を覆す柳・古田の1・2番コンビ。



ベテラン塚原さんの投球術(相手が女の子なら顔面へ・・・)。2戦目からはヒールをはいてきた



中川さん。一人打球音がみんなと違う田端君。やたらゲッツーの練習を行う大石先生。セカンド竹内さんの超美技。西尾君の超悪球打ちの超

特大ホームラン。奇跡の逆転サヨナラ劇を生んだ熊谷先生の1塁への快走。堅実な守備



に計算し尽くしたエラーを行う児島

君。遠くネパールの地から応援してくれていたであろう椎野君・・・など、どの場面もすぐに記憶が蘇るすばらしいプレーであり、畜資のチームワークの良

さ(?!)が前面に出た大会だった・・・と思います。

最後に、白熱した試合と共に、研究室間の交流も非常にうまくいった大会と独り勝手に思っておりますが、わんぱくになりすぎたおとな達が多く、秋の四明会に向けてもう一団結を！！ということで、6月6日(金)に、大会の打ち上げが行われます。大会に参加した方、していない方、問わず、せっかくの機会なので、大いに盛り、研究室間の友好を深めましょう！！ソフトボール大会の様子は、はくび会のHP <http://www.hakubikai.kais.kyoto-u.ac.jp/> で閲覧できます。



妙心寺退蔵院で見つけた襷絵の山羊

目次:

～広岡先生の随筆①～ 2-3
英語で論文を書く

平成20年度 3
第1回学生実験

新メンバー紹介③ 3
中川さん

今年の畑その後... 4

新メンバー紹介④ 4
柳君

研究室訪問記 4
～お世話になりました～

お知らせ 5

さわやかな5月が、ソフトボールのワクワク感と共にやってきました。日中は汗ばむほどの陽気で、日焼けが気になりました。今年のソフトボール大会は、雨天順延もなく順調に日程をこなすことができましたね。毎年この大会で各研究室、そして先生方との距離がぐっと縮まります。今年もたくさんの先生方に参加して頂きました♪(先生方のほうが夢中になっていたりします...^^)。ちなみに今年度は体操服を準備していたという噂の広岡先生、みんなが参加を待ち望んでいましたが...来年はぜひその勇姿を拝見したいものですね！



好評連載 広岡先生の随筆

⑪ 英語で論文を書く



最近、学生諸君が英語で論文を書く機会が多くなってきた。自然科学の研究を行う限りにおいては当然のことであるが、まず、英語で論文を書くことは、日本語で書くよりも数倍のエネルギーを使う必要のあることを覚悟しておくべきである。また、十分な英語のライティングの勉強とトレーニングが不可欠である。私も英語で論文を書くために非常に努力をしてきたし、勉強もしてきた。それでもいまだ未熟である。しかし、その経験を伝え、今リアルタイムで悩んでいる学生に少しでも解決のヒントになればと本文を書くことにした。

学生諸君の英語は大きく「上手な英語」、「英語雑誌に受理される英語」、「日本人の英語」、「宇宙人の英語」に分けられる。これまでの経験では、京大生のレベルは、数人の例外を除いて「日本人の英語」のレベルである。ここで言う「日本人の英語」とは、高校までの英語教育で学んだ英語は十分マスターしているが、論文としての英語のレベルには不十分なものである。また、日本人には感覚的に理解できるが、外国人にはおかしく見える英語とも言える。ここで重要な点は、「日本人の英語」では学術英文雑誌には絶対に通用しないということである。つまり、一般的には、学生諸君の英語は通用しないという現実を知る必要がある。

帰国子女でかつ英語圏で学んできた「上手な英語」を書ける学生についてはここで述べる必要がないので省略するが、これまでの間によほど英語を勉強してきたのか「英語雑誌に受理される英語」を書ける学生ならば、そのまま外国雑誌に投稿しても、内容さえよければレフェリーや編集者に添削してもらって、受理されることが多い。また、たとえ多少の問題があっても、最近ではお金さえ出せばネイティブの外国人に校閲してもらえるので、深刻な問題は生じない。ここで問題となるのは、「日本人の英語」と「宇宙人の英語」しか書けない学生である。

「日本人の英語」のレベルの学生で最も多いのは、英語論文を書くことを意識せずに、受験までの英語の知識で論文英語を書く学生である。英語論文には英語論文の書き方があり、その書き方にしたがって書く必要がある。英語の基礎は十分できているので、私はこのレベルに属する学生には、まず関連する論文をしっかりと読み、まねる事を指導している。まねると言うのは抵抗を持つ方がいるかもしれないが、剽窃しろといっているのではなく、書き方のフォームをまねると言っているのである。一般に、自然科学の場合、それぞれの分野や研究内容によって決まった書き方のフォームがあり、そのフォームに従って書けば、書きやすいものである。たとえば、実験の場合、同じような実験を行っている論文を探して、その書き方をまねて、自分の実験内容が異なっている箇所や数値のみを入れ替えればよい。また、結果についても先行研究の書き方は十分参考になるはずである。「増加する」、「減少する」、「統計的に有意」などのお決まりの言回しはそのまま使えばよい。苦勞するのはイントロダクションとディスカッションであるが、これらについても関連する先行研究の文章を参考に自分でアレンジすれば、対応可能であろう。

不思議な事であるが、英語がペラペラしゃべれ、しかも英語に自信を持っている学生ほど書いてくる英語が、論文英語としては未熟なケースが多い。このことは、自分の英語に自信があるあまり、過信してしまい、他の論文をしっかりと読み、まねることを怠って自分流に書いてしまっている結果と考えられる。会話英語や受験英語と論文英語は大きく異なっている事を自覚し、論文英語は一から勉強し直すという覚悟を持つ事が問題解決の第一歩である。

もう一つ注意すべき事は、個々の英語は良くても、文章全体の流れが英語的でないと「日本人の英語」から脱せられない点である。よく日本語を書いてから英語に英訳する学生がいるが、日本語の文章と英語の文章では流れやロジックが異なるため、英語論文として受入れられるまでに至らないことが多い。したがって、最初から英語で書き進めることが論文英語の上達のコツである。しかしその一方で、よほど英語に慣れていないと、書くべきことが抜け落ちたり、非論理的な文章になったりすることになる。この場合の解決策は、あらかじめ書くべき内容と文章の流れを、日本語でも英語でもよいのでノートに箇条書きし、それをベースに英語を書くことである。

「日本人の英語」のレベルにある学生でも、かなり上のレベルの学生ならば、その文章は何とか添削してやることができるが、それ以下のレベルの学生に関しては、私の能力では全文書き直すしか方法がなく、それでは私の英語になってしまうため、結局のところ自分の力で解決してもらわざるをえない。さらに問題なのは、このレベルでは、外国人に添削してもらおうにしても、外国人が書かれた英語の意味を理解できず、結果として過った内容に添削されたり、意図した内容が書かれなかったりすることが多い点である。同じ受験英語を学んできた日本人になれば理解できても、その素養(?)がない外国人にはまったく意味が分からず、彼らが頭を抱えて悩む姿が目につくようである。

最後に「宇宙人の英語」についても触れておくが、このケースは外部の大学から編入してきた学生にまれにあるケースである。英文法もかなりおかしく、何が書いてあるのかさっぱり分からない英語である。この場合には、英文法からしっかり勉強してもらうしかないが、最初「宇宙人の英語」のレベルであった学生が、努力の末に「日本人の英語」のレベルの学生を追い越して、その上のレベルに達することもある。類似の論文をじっくり読み、書き方をまねれば、受験英語の基礎がなくとも、論文英語は十分書くことができるようである。

とにかく、論文英語の上達法は、論文英語の書き方を勉強し、類似の論文を参考に、根気よく書き方をまねることにつける。このことは、ほとんどの日本人の研究者が努力していることである。論文を読む度に使えるような言回しをノートに書き写している人や中にはパソコンに入力してデータベースを構築している人もいる。

英語で論文を書くと、世界中の研究者に読んでもらう機会ができ、別刷り請求がきたり、他の論文に自分の論文が引用されたりしたのを見ると飛び上がるほどうれしくなる。若い学生にとってはこれほど自信になることはない。その喜びを得るためには、論文英語の書き方をしっかり勉強し、地道に努力してマスターする他ない。

広岡博之

平成20年度 第1回学生実験

先日5月20日(火)、21日(水)の二日間「第一回学生実験」が行われました。実験内容は「反芻動物の採食性と飼料内容との関係:異なる飼料を給与したヤギの採食量、採食速度、反芻時間および第一胃液性状の比較とプロトゾアの観察」で、今年はヤギのルーメン液性状調査、ルーメン内容物中プロトゾアの観察、行動観察、インビトロ消化試験が一日目に、放牧行動の観察が二日目に行われました。(特訓とその成果)



実験に先立って前週の金曜に予備試験が行われました。4回生や修士1回生といった未経験者を中心とした人員配置だったので、ルーメン液採取で「ルーメン液採取のエキスカーパー」ことプラスチックパイプを使い、カテーテルを入れるという奥義を編集長から伝授されたり、

pHの測定やプロトゾア観察のレクチャーを受けたり、学ぶことが多い予備実験でした。

そして、実験当日。予備実験の成果か、朝からTA全員手際よく作業が進み、あっという間に一日目の実験が終わりました。二日目の放牧観察も、ヤギが木の葉を食べる様子を学生がビックリしたり、と終始和やかなムードで終わりました。(真面目だよ！3回生！)



記者は、インビトロ消化試験の担当で、実験結果を提示するのみだったので直接学生と触れあう機会はなかったのですが、それぞれ取材に行くと観察対象に熱心に目を向ける学生ばかり！！記者が学部生の頃とは大違いでした。実験後に熊谷先生からも「今回の学生は、真面目だった。」とお言葉をいただき幸先のいい学生実験となりました。文責:木村

コラム: 一言一考 ③

「成功と失敗」

成功は「確認」、失敗は「転機」。結果のみに依存するといろいろと面倒なことが多い最終的に氷をつかむ。その結果、この定義に至る。成功しても確認程度にすぎず、失敗してもそれは何かの転機である。成功と失敗は物事にチャレンジすれば常のものである。どちらをつかむにしても、この考え方によって成長できるメリットがある。どちらの結果も、貴重な経験であるし活かし方次第である。

(めんたいこ)

新メンバー紹介～第3弾～

このコーナーでは、今年度の畜産資源新メンバーをご紹介します。第3弾は、可愛い容姿で京大ラクロス部のマネージャー、本格派手作りケーキ&和菓子や手の込んだ可愛いお弁当と、最近の畜産資源にはめずらしく女の子オーラがあふれ出ている4年生の中川さんです☆5階の研究室で逢えます♪

①中川智加

(なかがわちか)

②何でも♪

③1986年12月9日

④A型

⑤福井県小浜市

⑥若狭高校

⑦ピアノ、フルート

⑧チョコ、パン屋さん

⑨カエル

⑩丈夫

⑪気に入る

⑫よろしくお願いします♪

①名前②なんて呼ばれたい?③誕生日④血液型⑤出身地⑥出身高校⑦特技⑧好きなもの⑨嫌いなもの⑩長所⑪短所⑫ひとこと



5月9日、『畜産のソフトボール外部コーチ』小林さんが研究室に来訪されました。いつも美味しいお土産を頂き、ありがとうございます！半年ぶりにお会いしたので、出町柳へ焼き鳥を食べに行きました～。次回はキャッチボールもしましょう！

お誕生日会

5月のお誕生日会が5/14(水)に開催されました。



5月のお誕生日さん・柳君のリクエストにより和スイーツをちくしの天使・智加ちゃんが手作りしてくれました！！ありがとう！琉球大からのお客様もまじえて楽しい時間を過ごすことができました。



学会報告

5月23～25日にシステム農学会2008春季大会in えひめ西条が、『地域から見つめる「食」と「農」のいま、未来』というテーマで開催され、畜産資源からは兒嶋君(M1)が、「GPSやGISを用いた耕作放棄地放牧牛の行動圏に対する要因解析」というテーマで研究発表を行いました。また、5月30日に京都全日空ホテルで開催された第25回微量栄養素学会学術集会において、田端さん(D3)が、「ネパール国南部低地における酪農家の給与飼料中ミネラル含量の月次推移」というテーマで講演しました。



はごろも牧場さんのやぎ乳石けん
(ミルク・ホエー・ヨーグルト)

今年の畑その後・・・

先月号でもご紹介した「やさいを作ろう会」。みんなでこまめに面倒を見ている成果が、とてもよく現れています。今年は、ちょこちょこ雨も降ってくれているので、植えた野菜達も雑草も元気よく・・・ということで、定期的に草引きもしています。5月中旬には、草引きの後に稲わらを敷いて、雑草対策をしました。まだ青いトマトが、どこ



まで大きくなるのかとハラハラさせてくれます。小松菜や大根は時々間引いて、お味噌汁になりしていますが、大根は一週間で驚くような成長ぶりです。リーフレタスとブロッコリーはもう食べごろを迎えています。枝豆もとうもろこしも順調に育っていて、夏が待ち遠しいですね。



新メンバー紹介～第4弾～

今年度の畜産資源新メンバー4人目は、4年生とは思えない落ち着いた風格と、その無い行動に安心感たっぷりの柳君です。まだまだたかさんの引き出しを隠し持っていそうな雰囲気です。5階の研究室で思考中です。



- ①柳 雄太
(やなぎゆうた)
- ②お任せします
- ③5月13日
- ④A型

- ⑤京都府
- ⑥私立洛星高校
- ⑦イベントテントの設置
- ⑧推理小説
- ⑨大量発生した生き物
- ⑩何でしょう？
- ⑪不器用
- ⑫どうぞよろしくお願いします。

①名前②なんて呼ばれたい？③誕生日④血液型⑤出身地⑥出身高校⑦特技⑧好きなもの⑨嫌いなもの⑩長所⑪短所⑫ひとこと

【研究室訪問記～お世話になりました～】

～先日畜産資源を訪問された琉球大学の4年生、稲垣さんからメッセージが届きました～



稲垣さん(左)と同じ研究室で博士課程を専攻されている平田さん(右)。産学連携で実際の山羊乳生産にも携わっているらしいです。

5月14日に研究室の見学をさせていただいた、稲垣菜奈です。琉球大学で山羊の採食に関する実験をしています。〔京大にきた目的〕大学院進学のこと、どんな研究が出来るのかお話をうかがうため。ゼミの見学



お土産に頂いた山羊乳石けん

もさせていただきました。

〔研究室について〕

学生の人数がとても多くて驚きました。なのに、みんな仲良しで楽しそうでした。最初は緊張してしゃべれなかったのですが、気さくに話しかけてくださって嬉しかったです。ゼミのあとにはお誕生日会にも参加させていただき、手作り和菓子をご馳走になりました。手作りとは思えないおいしさ！すごいです！！机の端にはお酒の瓶もあり、ちょっとびっくりしましたが、皆さんと飲んでみたかったですo(∇^o)

山羊好きの会話もできてほんとうに楽しかったです。

〔最後に〕

畜産資源学研究室の皆さん、今回はあたたかく迎えていただき、ほんとうにありがとうございました。沖縄におこしになる際はぜひご一報ください。沖縄のいいところをご案内いたします！

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月も学生実験のために11日のゼミはお休みです。今月の予定は、

6月 4日(水) 児嶋・柳(文献紹介) 14:45~ W-210

6日(金) 塚原(研究計画) 10:30~ E-503

12日(木) 木村・イクバル(研究計画) 10:30~ E-503

25日(水) 田端(文献紹介) 14:45~ W-210

27日(金) 椎野(研究計画) 10:30~ E-503

となっています。但し、変更等あればまたご連絡します。

ゼミ係

今月のお誕生日会

6月のお誕生さんは児嶋くん(6/30)で、「イチゴのショートケーキ」というオーソドックスなリクエストをいただいております。日程は決定次第お知らせいたします。

イベント係



今月のおみや

小林さんから那須の御用饅頭、平田さんから沖縄はごろも牧場のやぎ乳とパインアップルバターを頂きました！ありがとうございます。丹波黒豆チーズケーキ、炭酸せんべい、すだちの実ゴーフレットも美味しく頂きました！



研究室メンバーの動き

椎野君が5月19日から6月3日まで、ネパールへ調査に出掛けています。熊谷先生も5月30日~6月8日までネパールへ出張です。塚原さんは6月16日~19日まで沖縄出張、西尾君は6月19日~統計遺伝育種研究会で盛岡へ出張予定です。

2008年6月の飼育当番表

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|--------------|----|-----|----------------------------------|---------|----|----|
| 1 大石先生・竹内 | 2 | 3 | 4 西尾・柳 体重測定 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 学生実験 児嶋・Iqbal 体重測定・予防注射 | 12 学生実験 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 熊谷先生・酒井 体重測定 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 椎野・木村 体重測定・予防注射 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 7/1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

編集後記 気候と懐の冷え込みが暖かな陽気で緩和されて、外で遊ぶ機会が多くなってきました。1階ボーリング部では、新入部員を交えて8ゲームを軽く消化しました(新入部随時募集中)。一日中コンピュータに向かっていると、どうしても運動不足になりがちですよね。体を適度に動かすことは、健康のためにも頭のリフレッシュのためにも良いと信じています☆さて、今月号から編集補助係という力強い助っ人を得て、編集作業がぐっと楽になりました。これからもご協力をお願いします~♪